NACS-Jとは？

「日本自然保護協会」は、その名の通り、日本の自然を守るために全国各地の人たちと協力し、1951年から70年以上にわたって活動してきました。会員約2万人の会費や幅広い個人・団体・企業のご寄付に支えられている民間のNGOです。貴重な自然を守るための政策提言、調査研究、企業や国際社会との連携、地域の自然の守り手である「自然観察指導員」を育てつなげる活動をしています。「自然のちからで、明日をひらく。」をモットーに、人と自然がともに生き、赤ちゃんからお年寄りまでが美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会をつくることを目指しています。

自然観察指導員とは？

自然観察指導員は、NACS-Jが1978年から養成している自然観察会・自然保護のリーダーの登録制度です。養成講習会を修了した上、NACS-Jが発刊している情報誌や、各地の研修会で研鑽を積んでいる人たちです。何十年も実践と研鑽を積んだ指導員もいます。全国で3万人以上が登録され、現在約8,000人が継続登録し全国で活動しています。地元の自然を保全しながら、自然の不思議や魅力を人と共有し、自然を大切に思う人を一人でも多くするべく、自然観察会を各地で開催しています。自然観察指導員は、年間でのべ130万人に自然観察の機会を提供しています。

参加者の発見・体感を重視！

五感で自然を深く理解

目に見えない自然の「しくみ」を観ます

異変があったら保全します

解説より体験を！

保育士さんの声

いつものさんぽ道で実施してもらえたので、
それ以来子どもたちは繰り返し教えていただいた
自然遊びを楽しんでいます

指導員さんにやってもらったプログラムを、
次は自分なりにアレンジしてやってみました

男性の指導員さんでも、
子どもと目を合わせて優しくお話してくれたので、
子どもたちもよくなついていました

家庭でも子どもたちが虫を触ったり、
草花の名前を教えてれるようになったと、
保護者の方も喜んでおられました

今回は秋でしたが、ほかの季節の
自然観察や自然遊びも知りたいです

子どもたちが散歩のときに、草花やきのこの
名前を確かめ合ったり、触って匂いを嗅いだりする
姿がみられるようになりました

今まで自然に苦手意識があったけれど、
自然観察は私自身とても楽しかったです。
子どもたちもあんなに喜んでいたので、
これからはもっと気軽に、園庭やさんぽ道で
身近な自然を楽しみたいと思います

日本自然保護協会と自然観察指導員ができるサポート

自然観察指導員の紹介・講師の派遣・研修の共催

自然観察指導員や講師には「自然観察会・自然体験の開催」「研修講師」などを依頼できます。「乳幼児自然保護教育リーダー」認定研修会の共催もご相談ください。

テキストのご紹介

実践的な工夫を満載した、『幼児教育・野外指導者のための乳幼児との自然観察 AtoZ』（税込2,420円）を頒布しています。ぜひご一読ください。

自分自身がスキルを身に付ける

「自然観察指導員講習会」の受講がおすすめです。自然の見方、見せ方が学べ、自然観察指導員に登録できます。上記以外でも、お気軽に日本自然保護協会にお問合せください。

お問合せ先

公益財団法人 日本自然保護協会 保護・教育部 すべてのこどもに自然を！プロジェクト担当
TEL：03-3553-4101　FAX：03-3553-0139　メール：kansatsu1978@nacsj.or.jp
〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F

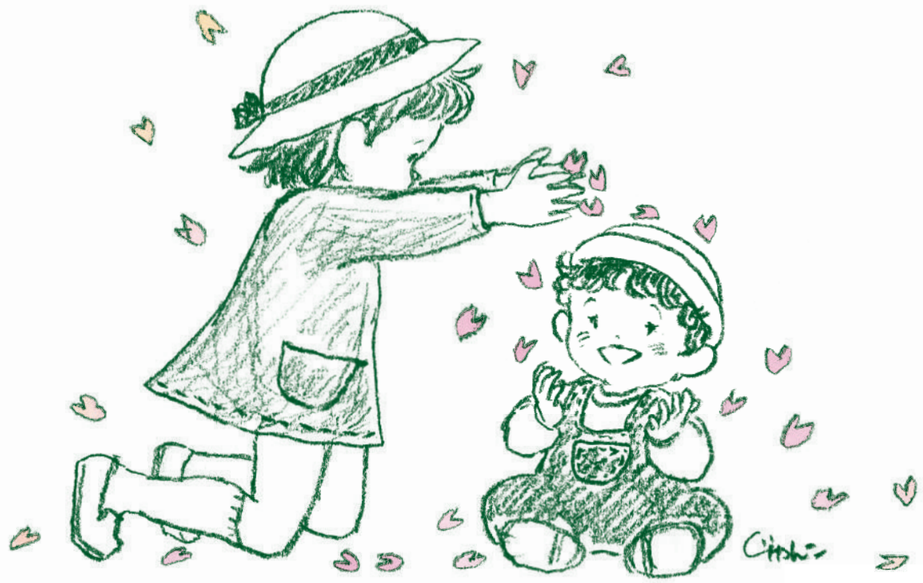
プロジェクト動画は
こちらから →

主催 / 金沢学院大学教育学部 藤井研究室、日本自然保護協会　　LUSH JAPAN リファンドローカル助成事業

NACS-J

すべてのこどもに自然を！プロジェクト

公益財団法人 日本自然保護協会



豊かな自然体験を、すべての子どもに届けたい。

子どもの心とからだを健やかに成長させるには、豊かな自然とふれあうことが不可欠だと言われています。この自然体験は、実は0歳からすでに始まっているのです。幼少期の自然の原体験が、持続可能な社会を創る力になります。私たちは、乳幼児のための自然体験・指導者養成プログラムを持っています。子どもたちには豊かな自然に囲まれ、ずっと笑顔で暮らしてほしい。家庭の環境によらず、すべての子どもに自然の原体験を届けたい。

“わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘などを子どもといっしょに再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります”『センス・オブ・ワンダー』より
この大人の一人として、一緒にすべてのこどもに自然を届けませんか。

身近な自然を見つけよう！

いつでも・どこでも・だれとでも。園庭に生えている木を観察する、葉っぱの匂いを嗅ぐ、そこにあるけどやっていない自然観察。散歩途中の木々や花々、どこにでもある小さな自然を体験して学ぶ機会をつくります。

全国ではたくさんの子ども向けの自然体験プログラムが実施されていますが、未就学児向けのものは限定的で、3歳未満児が参加できるものはさらに少なくなっています。乳幼児期は外の情報をどんどん吸収し自我を形成する時期であると同時に、粘り強さや主体性といった非認知能力が育つ大事な時期です。このプロジェクトは、「保育園」や「こども園」などに自然観察指導員が出向き、下記のような活動を行います。

1 自然観察・体験を行う

自然観察指導員が外遊びやお散歩に同行し、園児さんの自然観察や体験を支援します。どこにでもある自然を一緒に探して、感じて、学びましょう！

2 保育士・学生さんへの研修

NACS-Jが長年の教育活動で養ったノウハウや、身近な自然との接点をもっと保育や教育に活かせるコツをお伝えします。

ご参考：本プロジェクトでは「既存の自然観察会には参加しにくい方々」にも届けるためにあえて年齢や場を設定していますが、自然観察指導員は「“いつでも・どこでも・だれとでも”自然観察会をしよう」を合言葉にしています。自然に触れ、楽しみ学び、人の輪をつくったり、自然保護活動したりすることは赤ちゃんからお年寄り、からだの不自由な方もそうでない方もあらゆる個性の方と一緒にできます。

子どもの自然とのふれあいの現状

◆全国的に子どもの自然体験は低水準

子どもの自然体験はなかなか増えておらず（図1）、子どもの身近な自然とのふれあいは年々少なくなっています（図2）。地方でも、子どもの自然体験は都市部と大差がないようです（図3）。今の子ども達は、シニア世代や親世代の幼少期よりも自然に触れにくい環境に置かれているのです。

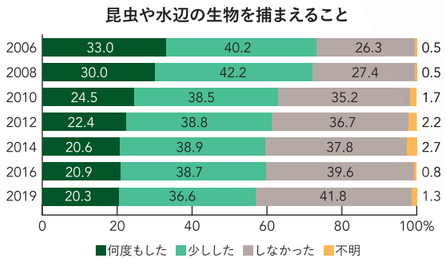


図1：小学生が学校外で1年間に行った自然体験
（国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和元年度調査）」より）

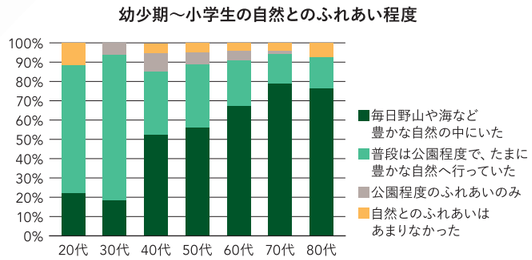


図2：2016年度の当会自然観察指導員活動調査より

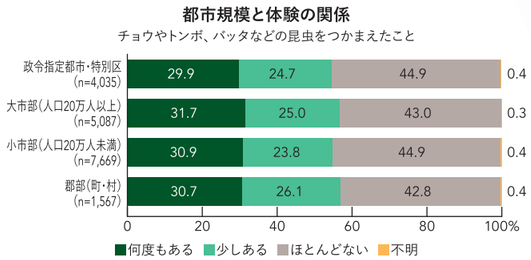


図3：「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成22年度調査）より
※小学生、中学生、高校生のアンケート結果をまとめたもの

◆家庭の境遇の格差が子どもの自然体験の格差を広げています

日本では、教育格差や貧困の連鎖は大きな社会問題になっています。幼少期の自然体験も、子どもの自己肯定感や学力に影響する要素の一つですが、自然体験についても、年収が低い家庭程で少なくなっています。「子どもに自然体験をさせたい」と思っても、経済的な原因に限らず、余裕がない家庭で難しいことは想像に難くないでしょう。

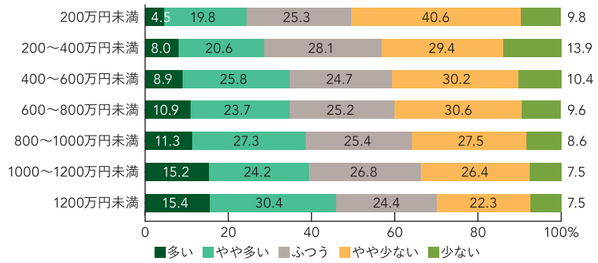


図4：世帯収入と子どもの自然体験の関係
国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査」（令和元年度調査）の図を改変
※小学生、中学生、高校生のアンケート結果をまとめたもの

◆幼少期の自然との付き合い方が将来の暮らしに直結します

私たちの暮らしは自然の恵みが土台になっていますが、今その土台は海洋プラスチックや気候変動などで揺らいでいます。NACS-Jでは幼少期に五感を通して自然のしくみを体感的に理解していることが持続可能な社会を創るのに欠かせないと考えています。実際に、自然保護に根差した行動をする人は、そうでない人より幼少期の自然体験が豊かな人が多いことがわかっています。また自然保護活動者に話を聞くと、中学生～新社会人時代に自然とは縁遠い生活をしていても、小さい頃に自然の中で過ごした楽しい思い出がきっかけとなって、活動を始めた方がとても多く、幼少期の自然の原体験の重要性を強く実感しています。

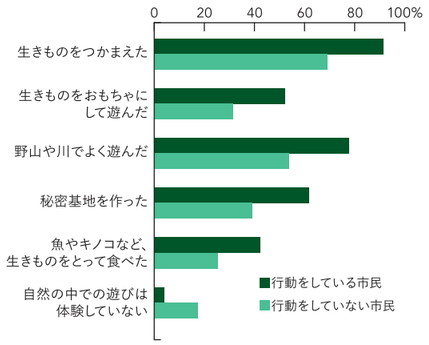


図5：自然保護の行動をしている市民と、そうでない一般の方に聞いた、幼少期の頃の自然体験